

第1回兵庫県立大学評価委員会 議事録

1 会議の日時及び場所

- (1) 日時 平成21年7月29日(水) 13:30~15:30
- (2) 場所 兵庫県立大学本部 中会議室

2 出席した委員

石川委員長、藤田委員、家次委員、西門委員、西川委員

3 出席した職員

- (県立大学) 熊谷学長、鈴木副学長、阪本副学長、清原副学長、大原事務局長、
柳井事務局副局長兼総務部長、田中事務局企画調整部長、菅野事務局学務部長
- (兵庫県) 牧企画県民部長、榎本企画県民部教育・情報局長、
西岡企画県民部教育・情報局大学課長

4 会議の内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 県立大学より大学の概要説明
- (5) 議事

委員長選出

石川委員を委員長に選出

委員長職務代理の指名

藤田委員を委員長職務代理に指名

評価の基本的な考え方について

) 評価の進め方について

事務局より資料2により説明し、意見交換を行い、概ね了解を得た。

(下記5参照)

) 評価の視点、今後のスケジュールについて

事務局より資料3, 4により説明し、意見交換を行い、概ね了解を得た。

(下記5参照)

) 中期計画及び中間評価の概要について

県立大学より参考資料4, 5により説明

(6) 閉会

5 意見交換の概要

[評価の進め方について]

定量的な目標と定性的な目標があると思うが、どういう形で評価するのか。事実として定量的なものが出てくるのか。

大学の自己点検を踏まえ、委員会としては広い観点から定性的評価をすると考えてよいか。

両方とも総合的に評価していただければ有り難い。進捗状況の数値的な評価(定量評価)

もあるし、全体的というような評価（定性評価）もお願いしたい。それを踏まえて次の3年間に目指す中期計画を策定したいと考えている。

第1期の評価であまりできていない、問題があるとされた項目は、今どうなっているのか。

大学として、たくさんの項目について、厳しい自己点検・評価を行っている。

第1期の中期計画に書かれた項目で達成されていない項目については、全て第2期の中期計画に盛り込んでいる。

達成できなかった点について分析は行っているが、やり方に問題があったのか、目標設定に問題があったのか、いろいろな角度でご意見をいただきたい。

兵庫県立大学が誕生して、例えば学生のエネルギーは以前よりプラスになっているのか、県立大学に行きたいと思っているのか、そういう評価が知りたいし、研究所などで先生方がどのような指導をされているか等についても聞かせてもらいたい。

統合によってどれだけ具体的なメリットが生じたかについては、大学としても一番中心の課題と考えているが、成果が見えるには時間がもうすこし必要と考えている。

統合によるメリットは、共通教育の充実等により推し進めているところである。

大学の特徴として、キャンパスが点在していることがあるが、その中で教育効果を高める工夫を重ねている。

兵庫県立大学としての一体性を学生自らが意識しながら、大学自体の特徴を打ちだしていきたいと努力をしている。

附属中学と附属高校を設置し、公立大学としては初めての試みとして、中・高・大の連携教育を行い、広く意見交換も実施している。

附属高校から、県立大学には全員上がっているのか。

附属高校から大学への入学については、推薦によって大学に入学できる制度と、一般の受験生として受ける制度と2種類ある。

先生方の立場以外に、今いる学生が兵庫県立大学にどういう評価をしているのか、というようなデータを見せていただければありがたい。

[評価の視点、今後のスケジュールについて]

教育、研究、社会貢献と評価することになると、どれもかなり大きな視点で、工夫しないとスケジュールどおり進まない。

大きな柱ごとにご意見をいただいきたい。

また、特に解決できなかったとか、残された課題があるものについて、整理した上で、それに関するデータ等をつけて評価を進めていただきたい。

キャンパス調査にいくようだが、前回2年前と変わっているのか。

時代に対応した新しい研究科が作られるなどしている。

また、統合して6年目であり、統合の成果が具体的にどのように現れてきているのか、現場との意見交換をしていただきたい。

大学側も我々評価する委員側も、やってよかったという形が出てこないという意味がない。

もともと3つの大学があって、今の大学にかなりの特色をもって引き継がれている。学部によって、同じ項目でも、達成度が違うのではないかと思う。目的にあったデータを揃えるのが難しい。

学位授与機構の認証評価を受けた年でもあり、細かな資料は取りまとめている。上手にデータを活用して提供していきたい。

知事の附属機関としての委員会なので、兵庫県立大学というものだけを視点にして、3つの大学が統合されて6つの学部になり、総合大学としてのあり方を、学生からあるいは先生方の立場から、あるいは院生の立場から見せてもらって、いろんなことが言えればいいと思っている。

前回の委員会から継続的に考えないと、前回の結果は何だったのかということになる。

評価のための評価ではなく、次のステップに行くために何が課題か、どこまでできたかを確認し、その成果をいかしていくという流れの一環で評価をしている。

評価の項目が非常に抽象的という感じを受ける。

そういうものもあれば、極めて具体的なものもある。

例えば教員の担当科目やシラバスの作成など、具体的に答えが出るものもある。

目指す大学像、ビジョンに対してどうなのかといった視点がないと、全体が見えなくなってくるのではないか。目指す大学像があって、そこに照らしてみた時どうなのかと。そういった視点で評価が必要。

いったい何が今の状況の中で大事なのか。プライオリティの高いものができていないとか、低いものがたくさんできていてもあまり意味がないとか。大学の基本目標に照らして、さらに今の兵庫県立大学の状況を考えて、どうであるかということが一番問題だと思う。

これだけの自己評価をされて、実際にどれだけの手間なのか。重点項目をあげるとかプライオリティを考えてもよいのではないか。評価のための評価であってはならない。

推進した項目は制度的なもの、ハードの整備が多い。中身がどうできているのか、そのあたりの評価が難しい。我々も総花的に全ての評価はできないので、先生方はどのようにそれを改善しようとしているのか、それを伺いたい。

キャンパスでの調査も、形式張った形でなく、フリーディスカッションを入れて次回に繋がるような形にして欲しい。